

新規事業採択時評価結果（平成20年度新規事業化箇所）

担当課：道路局 国道・防災課
担当課長名：深澤 淳志

事業の概要

事業名	中部縦貫自動車道 一般国道158号 大野油坂道路（大野東・和泉区間）	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 近畿地方整備局
起終点	自：福井県大野市下唯野 至：福井県大野市貝皿	延長	14.0 km		
事業概要	<p>中部縦貫自動車道は、北陸自動車道、東海北陸自動車道及び中央道長野線を相互に連結し、福井市、高山市、松本市を結ぶ延長約160kmの高規格幹線道路であり、既存ネットワークの延伸、県境部の狭隘区間など整備効果の高い区間から優先的に整備を進め、現在までに約36kmを供用中である。</p> <p>大野油坂道路（大野東・和泉区間）は、中部縦貫自動車道の一部を構成する延長約14.0kmの自動車専用道路である。</p>				
事業の目的、必要性	<p>大野油坂道路（大野東・和泉区間）は、旧和泉村と大野市中心部を結ぶ唯一の幹線道路である国道158号の線形不良箇所を回避、高次医療施設への救急搬送時間の短縮、災害時の代替機能の確保等を図るとともに、地域間の交流・連携の活性化に大きく寄与するものである。</p>				
全体事業費	523億円	計画交通量	7,200~7,500台/日		
事業概要図					

関係する地方公共団体等の意見
 大野油坂道路（大野東・和泉区間）は、地域間の交流・連携の活性化に大きく寄与することが期待されており、福井県知事をはじめ、沿線首長、議会、商工会などから早期整備の要望を受けている。
 また、計画内容に関して福井県知事の御意見を改めて伺った結果、異存ない旨の回答を頂いている。

事業採択の前提条件
 費用対便益：便益が費用を上回っている。
 P Iアンケート実施時における概ねのルート案の提示や、環境調査を実施しており、円滑な事業執行の環境が整っている。

事業評価結果

費用対便益	B/C	3.4	総費用：447億円 （事業費：387億円 維持管理費：60億円）	総便益：1,534億円 （走行時間短縮便益：1,397億円 走行経費減少便益：110億円 交通事故減少便益：27億円）	基準年 平成20年
	感度分析の結果	交通量変動	B/C=3.8 (交通量 +10%)	B/C=3.1 (交通量 -10%)	
		事業費変動	B/C=3.2 (事業費 +10%)	B/C=3.8 (事業費 -10%)	
	事業期間変動	B/C=3.2 (事業期間 +20%)	B/C=3.6 (事業期間 -20%)		
事業の影響	評価項目	評価	根拠		
	自動車や歩行者への影響				
	渋滞対策	—	注目すべき影響はない。		
	事故対策	○	並行する現道について、事故の減少が見込まれる 【死傷事故率】約122件/億台キロ（現況） [死傷事故率比（県内平均比）1.96倍] 福井県平均：62.1件/億台キロ 全国平均：101.4件/億台キロ		
	歩行空間	—	注目すべき影響はない。		
	住民生活	○	【高次・救急医療施設へのアクセス時間の短縮】 永平寺大野道路と一体的に機能し、旧和泉村から三次医療施設（福井県立病院）への60分圏域が拡大し搬送時間が約12分短縮（67分→55分）		
	地域経済	○	【物流・観光利便性の向上】 線形不良箇所（曲線半径<60m 8箇所、縦断勾配>7% 7箇所）の回避により大野市から中京圏への円滑な輸送を支援、物流・観光（九頭竜湖、和泉スキー場などの観光客→H19観光入込客64万人）に対する利便性が向上。		
社会全体への影響					
災害	○	【防災対策】 防災点検要対策箇所、異常気象時通行規制区間を回避するとともに、冬季積雪時の安全な通行を確保。 土砂災害、豪雨等により過去7年で8回の通行止めが発生、防災点検要対策箇所37箇所、異常気象時通行規制区間（連続雨量140mm）			
環境	—	注目すべき影響はない。			
地域社会	○	旧和泉村の日常活動圏中心都市である大野市への連携強化を支援。			
事業実施環境	○	整備に対する要望が強い。			

採択の理由

費用便益比が3.4と便益が費用を上回っていることから事業採択の前提条件が確認できる。
 また、当該事業箇所の並行現道に存在する異常気象時通行規制区間の回避や線形不良箇所回避による通行止め時の代替路確保など高次医療施設への救急搬送時間の短縮、物流・観光支援等、当該事業の必要性・効果は高いと判断できる。
 以上により、本事業を採択した。

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。